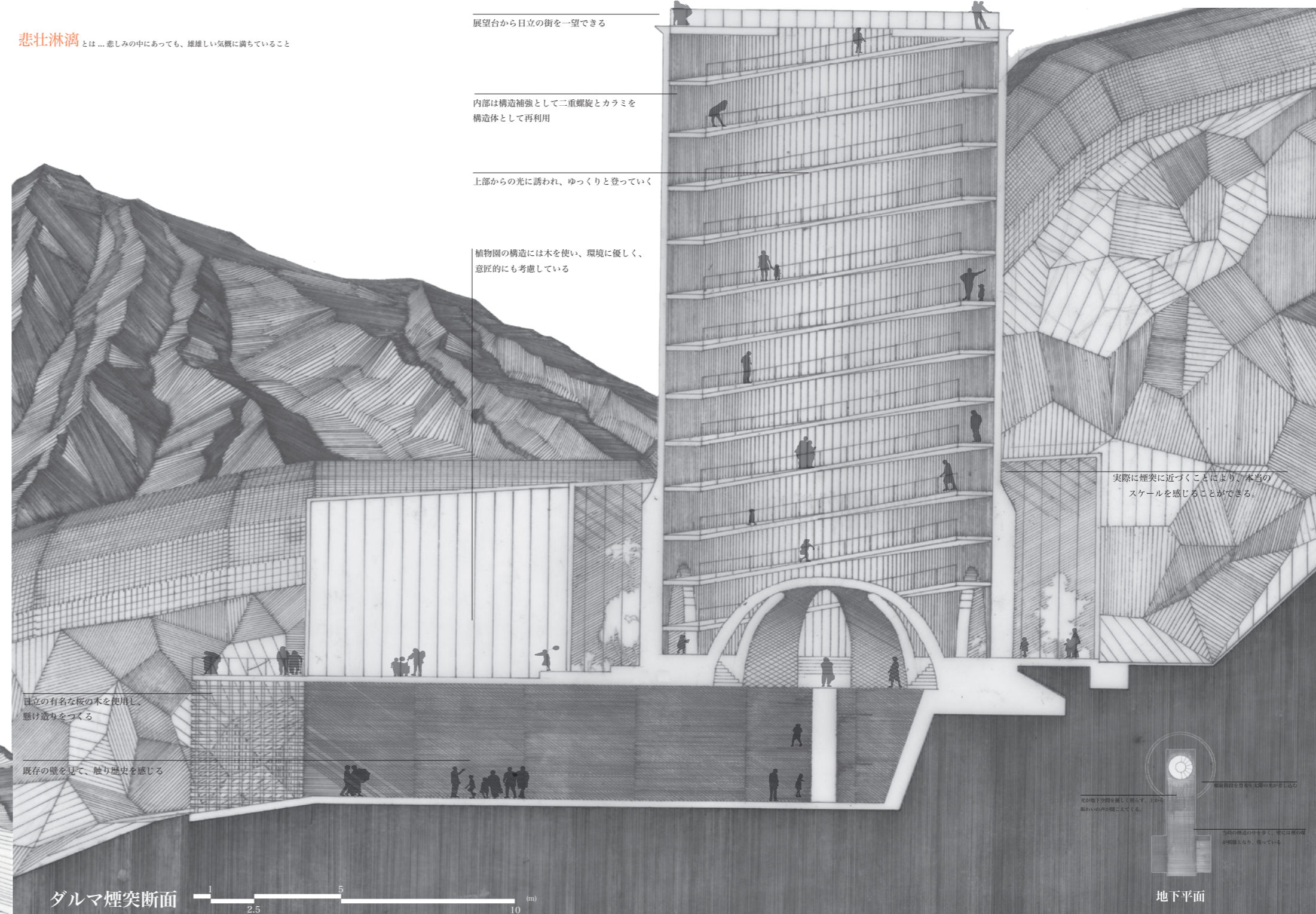
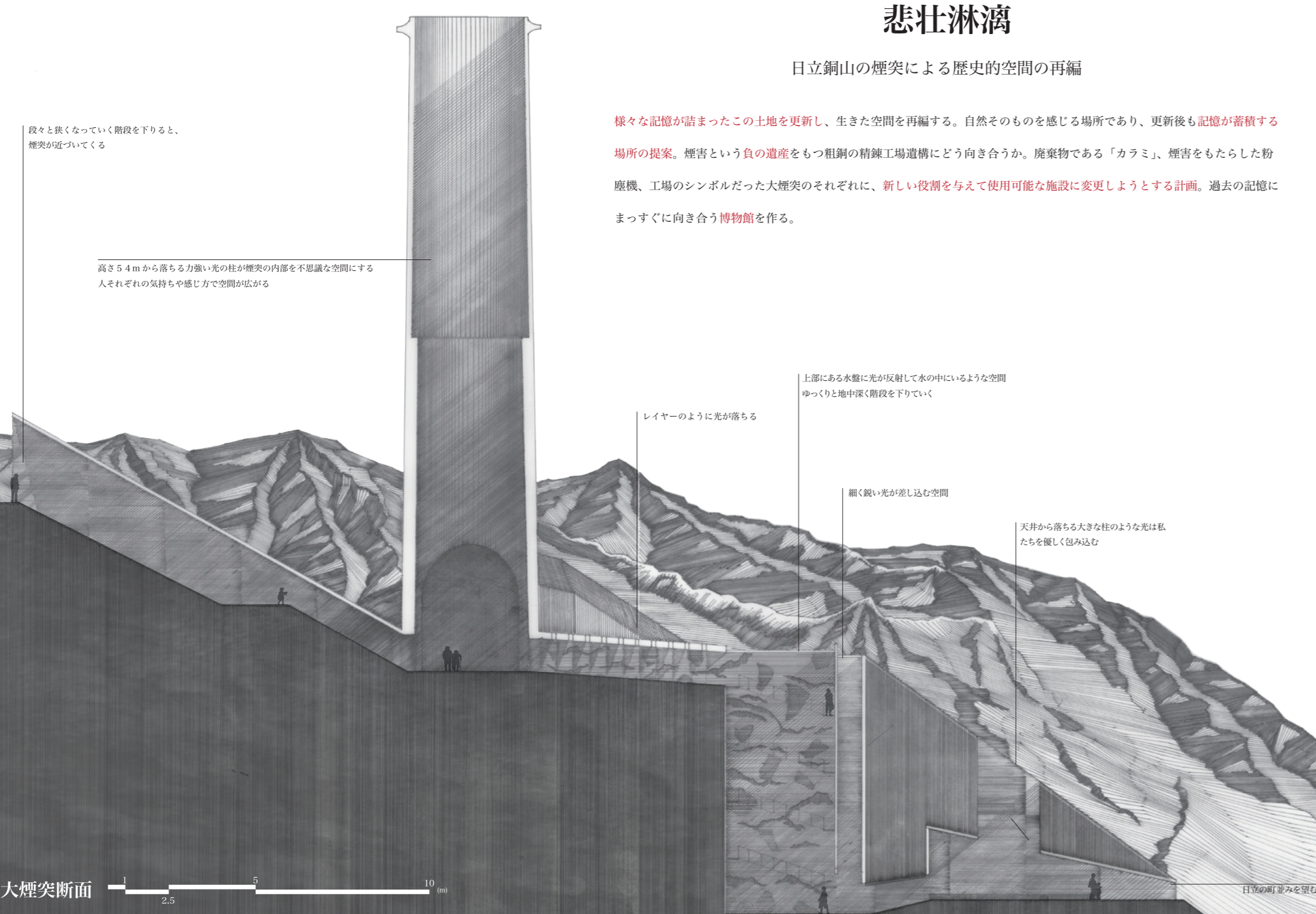


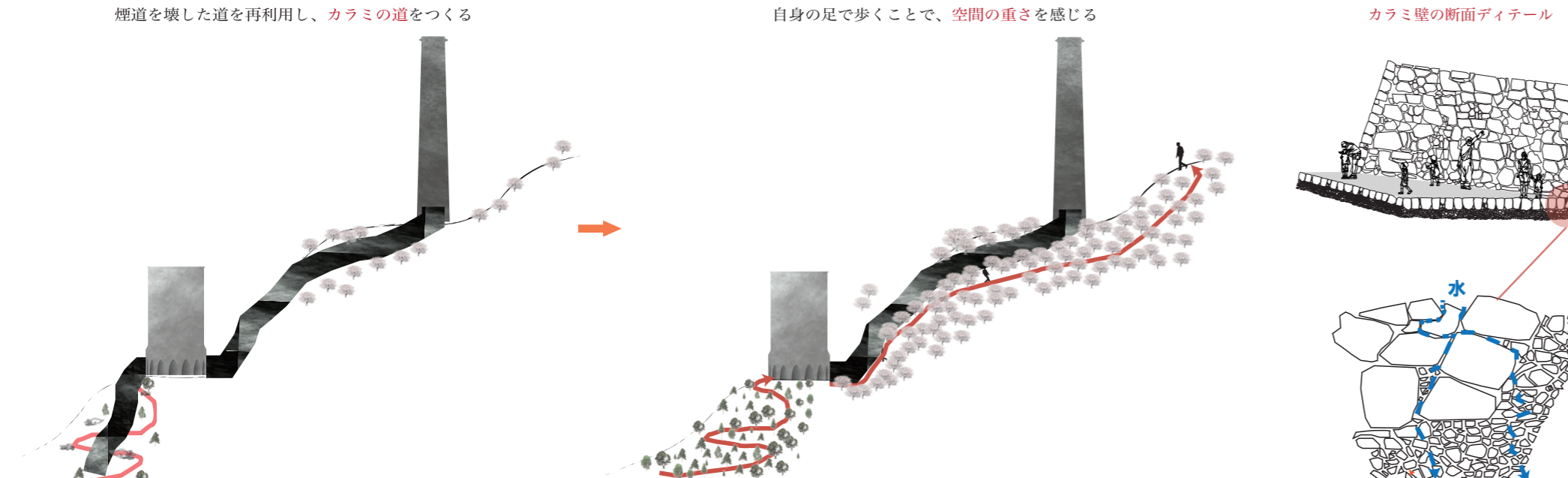
# 悲壮淋漓

## 日立鋼山の煙突による歴史的空間の再編

様々な記憶が詰まったこの土地を更新し、生きた空間を再編する。自然そのものを感じる場所であり、更新後も記憶が蓄積する場所の提案。煙害という負の遺産をもつ粗鋼の精錬工場遺構にどう向き合うか。廃棄物である「カラム」、煙害をもたらした粉塵機、工場のシンボルだった大煙突のそれぞれに、新しい役割を与えて使用可能な施設に変更しようとする計画。過去の記憶にまっすぐに向き合う博物館を作る。



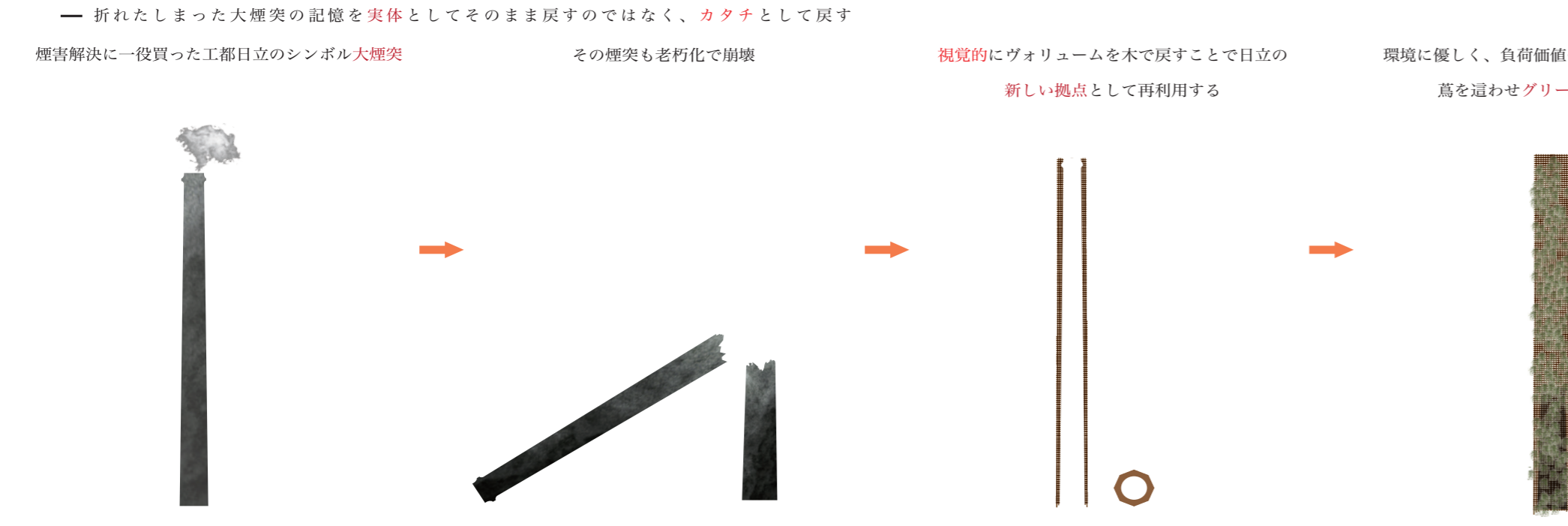
### 1 直接構造物に近づける物理的アクセス



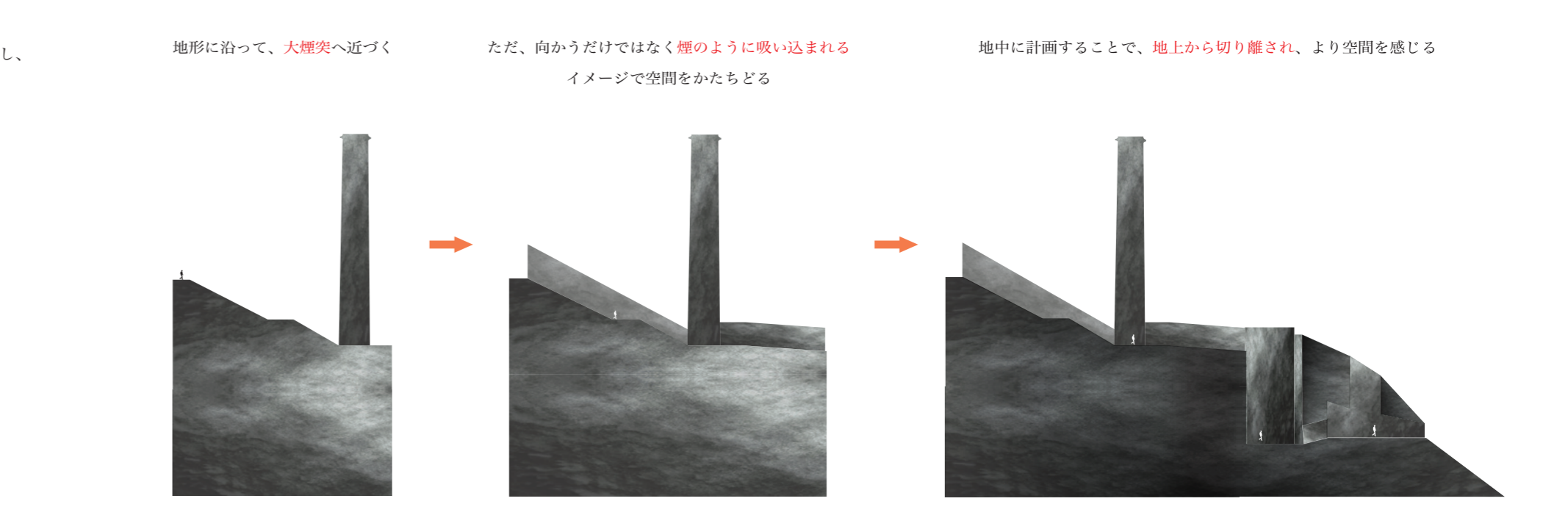
### 2 構造物に触れる解釈的アクセス



### 3 構造物を見えるようにする視覚的アクセス



### 4 地下化することによって生まれる空間の広がり



#### Site 茨城県・日立市

大煙突と呼ばれた時代と現状

人間の知恵と自然の力の融合

#### Background 一定のタイムラインの存在

稼働停止した遺産には【印刷-収束-定規-図説】または【印刷-解体-廃棄-図説】という一定タイムラインが存在する

#### Plans 空間体験の連続

大煙突平面

ダルマ煙突平面

#### Material 「あるもの」を最大限に生かす

木質化

耐久性

集積材

強度

耐火

#### Circulation ネットワークの循環を可視化

木を積んで育てて伐採してまた、積める。そのライフサイクルに合わせて本造建築のサイクルを作ることを提案します。

#### Wood 木の循環を可視化

木質化する都市

荒れた山林を活性化

ウッドマイルージの低減

貯木による二酸化炭素の固定化



自然の植生は、産業遺産の年月に比例し、変化し、共存する